

# 新聞と親しみ、新聞を楽しむN I E ～新聞と友だちになろう～

指定校第1年次 飯田市立鼎小学校 奥石 慶太

## I 単元設定の理由

### (1) 本校のN I Eの現状

本校は全校児童769名、各学年4～5クラスという飯田市内でも有数の大規模校である。学校教育目標「心豊かでたくましい、鼎の子」のもと、「～共に学ぶ喜びの中で、自己を高めるための指導はどうあったらよいか～のびのびと自己表現できる児童」を全校研究テーマとして掲げ、2011年度は特別支援教育、健康教育、国語科、体育科、学力向上・小中連携、そしてN I Eの研究をすすめてきた。

実践を行った6年1組は、31名の児童のうち、新聞を家で取っていない家庭が4件あり、さらに新聞を取っている家庭でも、新聞をほとんど見ていないという児童が大多数であった。また新聞を読むと答えた児童に聞いてみても、テレビ欄や4コマ漫画、スポーツの結果だけ見るという児童が多かった。どうやら、新聞は字が多くて読もうという気にはなかなかないようであった。朝の会や社会科の授業で、「最近、〇〇という事件が新聞に載ってたよね？」と問いかけても、「知らない」「何それ？」という答えが多かったのも、子どもたちが普段から新聞に抵抗感をもち、そこから情報を得ようとしていないためだということが判明した。

そこで本学級では、まずは子どもたちに新聞のおもしろさや便利さに気付いてもらうために、朝のドリルの時間や道徳の時間などで記事の切り抜きを資料として使い、読んだり考えたりする時間を設けた。また担任の方で気になる記事をスクラップし、教室後ろにあるコルクボードに掲示することで子どもたちの興味関心を引き出すようにした。

さらに、もっと気軽に新聞とふれ合ってほしいと考え、9月より新聞の購読を開始した。朝登校してきたら新聞が読めるように、宿題を出すかごのすぐ横に新聞を置いておくようにした。初めはあまり興味のなかった子たちでも、何日かすると一面だけでも目を通すようになってきた。また、学校に来て新聞を読むのを楽しみにする児童が少しずつ増え、読書の時間に新聞をすすんで読もうとする児童も増えてきた。今後も新聞から情報を得ようとする児童の姿が期待される。

このように、1学期から少しずつ新聞を学習教材として使ったり新聞がすぐに読める環境を設定したりしたことで、以前のような新聞に対する抵抗感をなくすことはできた。

### (2) N I E実践のねらい

少しずつ新聞に慣れ親しみ、気軽に手に取ることができるようになった児童たちの現状をふまえ、次のようにねらいを設定した。

#### ＜高めたい子どもの力＞

- ①社会的事象に興味・関心をもつ  
(視野を広げる)
- ②自分に考えをもち、自ら表現する力
- ③情報を活用する力



#### ＜育てたい子どもの姿＞

##### ～N I E実践のねらい～

- ①新聞を通して、社会の動きに目を向けることができる子ども
- ②自分の意見を根拠をもって言える子ども
- ③情報を活用(読解、利用、選定、検索、作成)できる子ども

## II 研究の概要

### (1) 実践した教科・領域

『国語』『社会』『道徳』『総合的な学習の時間』（朝ドリルの時間）

### (2) 新聞の提供状況

| 新聞名   | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|----|-----|-----|-----|
| 信濃毎日  | ○  | ○   | ○   | ○   |
| 中日    | ○  | ○   | ○   | ○   |
| 読売    | ○  | ○   | ○   | ○   |
| 産経    | ○  | ○   | ○   | ○   |
| 日経    | ○  | ○   | ○   | ○   |
| 朝日子ども | ○  | ○   | ○   | ○   |
| 毎日子ども | ○  | ○   | ○   | ○   |

本年度が研究指定校1年次のため、9月より購読開始。12月までの4ヶ月間、毎日7部ずつ配達してもらっている。用務員さんに専用の新聞受けを作ってもらっていただき、大変ありがたかった。

※NIEの購読計画とは別に、学校としては信濃毎日新聞を年間購読している。

### (3) 新聞の配置などの工夫

- ・子どもたちの目が自然と新聞に向くように、宿題を出すかごの横を「新聞スペース」として置くようにした。
- ・気になる記事があった場合はそのページを開いた状態で置いておくようにした。
- ・毎朝職員室から新聞を教室に運ぶ係を設け、新聞とふれ合う機会をつくった。

## III NIE実践の内容（授業学級6年1組で実践した主な授業）

### 授業実践その①

#### ○単元名

『意見文を書いて、『10代から』に投稿しよう』（国語）

#### ○ねらい

国語の単元「平和のとりでを築く～意見文を書こう～」の単元で、筆者の意見が読み手にしっかり伝わるような意見文の書き方を学習した子どもたちが、新聞の投書欄に投稿するという意識をもちながら意見文を書くことを通して、文章の構成に気をつけ、他者意識をもちながら自分なりの考えをまとめることができる。

#### ○内容

◇国語の単元『意見文を書こう』で意見文の書き方を学習したあと、テーマに沿って自分の考えをまとめ、420字程度の意見文として信濃毎日新聞『建設標』内の『10代から』に投稿した。

<意見文のテーマ>

- ①東日本大震災と自分
- ②学校はどんな場所？
- ③自分にとっての「友だち」とは
- ④組体操を通して学んだこと

<意見文を書く際の留意点>

- (1)必ず自分の体験談を入れること。
- (2)語尾を「です」「ます」ではなく、「だ」「である」にすること。
- (3)最後に自分の言いたいことをまとめとして書くこと。

- ◇単元の最初に、この学習の最終目標は「新聞に投稿すること」と提示した。
- ◇1時間に1テーマずつ書く。
- ◇分量は300～400字（原稿用紙1枚以内）にした。
- ◇4つ書き終えたところで、自分が最も書きやすかったテーマの意見文を清書する。その際、他の3つの意見文で書いた内容と多少重なってもよいこととした。この時の分量は400字以上430字程度とした。（新聞社より指定あり）
- ◇全員が完成したところで、信濃毎日新聞社本社に送付した。約2週間後の10月18日に最初の1人目が掲載された。（11月11日現在、12名が掲載された）

| 10代から   | 10代から   | 10代から  | 10代から  |
|---|---|--|--|
| <p><b>素直な心で本当の自分見つけたい</b></p> <p>学校とは、何のためにあるのだろう。勉強とか運動をするだけのためなのだろうか。</p> <p>子どもを小・中学校に通わせるのが保護者の「義務」なのは、ちょうどその年齢が、気持ちや考え方の変化がはげしい時だからなのではないかと私は思う。この時期に人との関係や社会のマナーなどを学んでいないと、将来に影響が出てしまうだろう。学校に行けば多くの人たちがいるから、人間関係やマナーなどもしっかりと身につける必要があると思う。</p> <p>しかし、学校では身に</p> <p>着かないものもあると思う。それは「本当の自分」だ。広い世界にアンテナを広げ、犯罪も戦争も政治も人間関係も、素直に自分の心や体で感じる必要があるのではないのか。そうしないと「本当の自分」を見つけて出すことはできないと思う。自分で学ばなければならないのだ。</p> <p>だから私は、学校に通うことも大切だが、それだけでなく素直な心を持ち、本当の自分を見つけて、人間関係やマナーなども生きていく上で必要だと思ふ。</p> <p>飯田市 林 未季<br/>(小学生・11)</p> | <p><b>学校は勉強を教わるだけじゃない</b></p> <p>学校とは「勉強をする場」と考える人が多いかもしれない。小学校なら、ひとつのクラスに30人くらいの子どもたちが集まり、1人の先生が勉強を教えているという風景が思い浮かぶ。だが、それだけの場所ではないと僕は思う。</p> <p>以前、こんな会話を聞いた。1人の子が「ほか」と言ったら、もう1人が「ほかだよ。ほかだから学校に来ているんだ」と言っていた。僕はそのやり取りを聞いて、疑問に思った。</p> <p>確かに、知らないこと</p> <p>が多い子どもたちが学校に来ている。だがそれは、新しいことを学ぶために学校に来ているんじゃないかと感じた。そして、自分も同じ立場にあるということをおぼろげに思った。</p> <p>友達をつかって一緒に遊ぶことも、いろいろな勉強をすることも、学校の役割だと僕は思う。だから学校は授業を受けることだけでなく、それまで知らなかったいろいろな新しいことを学ぶための場所だと僕は思う。</p> <p>飯田市 銀 大貴<br/>(小学生・12)</p> | <p><b>気持ちそらった最高の組み体操</b></p> <p>私たちは運動会で組み体操をやった。友達や他の組み体操は、達成感があって最高だった。</p> <p>私が思う本当の組み体操は、技もそろい、みんなの気持ちもそらっていてできる。それを目標として友達と支え合うことで、より良い組み体操になると思う。だから、技ができて満足するのはなく、気持ちもそろえることが大切だ。</p> <p>練習を重ねながら、自分で限界をつくるのはよくないと思った。自分で限界だと考えてしまうと、気持ちが弱まってしまふ、できるはずのことが</p> <p>できなくなったりする。だから一回一回の技に集中することが、自分にとって上手になっていく方法だと思った。</p> <p>大きな技は一人一人の気持ちが大切だと思う。「できる」という気持ち、そしてアドバイスをもらうことも大切だ。それによって自分では気付かないことが分り、前よりも良くなる。</p> <p>そうやって迎えた運動会の本番では、技も気持ちもそろった組み体操を見ている人に伝えることができたと思う。</p> <p>飯田市 関口 通葉<br/>(小学生・12)</p> | <p><b>大震災後変わった私の気持ち</b></p> <p>私は東日本大震災があったから、いろいろなことに対して気持ちがかわるようになった。</p> <p>それまでの私は、いろいろなことに対してめんどうくさいと思うことが多かった。しかし、大きな被害があった東北地方では、たくさんの方がなくなり、学校や家がなくなり、友達も失った人がたくさんいる。それを見ると、こんな自分ではいけないと思った。</p> <p>めんどうくさくたつて、しっかりやれば達成感があるし、それなりに頑張ることが変わって、前よりも答えが正確に出せるようになった気がした。</p> <p>た。東北の人は、勉強したり学校に行くことも我慢しているんだと思うから、私も「めんどうくさい」とか「嫌だ」という気持ちを我慢して、被災地の復興を祈りたい。</p> <p>そして今、私は何ができるのか、何をしたらいいのかわからず、人の役に立てようになりたい。わがままは我慢して、今やるべきことに集中し、日本に笑顔があふれるようにしたい。それが私の「うれしいこと」なのかもしれない。</p> <p>飯田市 宮下 香純<br/>(小学生・11)</p> |

『10代から』に掲載された児童の意見文（一部）

## 授業実践その②

### ○単元名

『歴史で学んだことを新聞にまとめよう～インタビュー新聞作り～』（社会）

### ○ねらい

縄文時代から鎌倉時代まで学習した子どもたちが、その当時の歴史上の人物にQ&A方式でインタビューするという設定で新聞作りを通して、歴史上の出来事や人物の生き方、時代背景などにも着目して新聞にまとめることができる。

### ○内容

◇縄文時代～鎌倉時代までで学習した人物1人に焦点を当て、インタビューするという設定で新聞にまとめることを伝える。

<子どもたちが題材にした歴史上の人物>

卑弥呼、聖徳太子、聖武天皇、鑑真、行基、藤原道長、平清盛、源頼朝、竹崎季長

◇自分で決めた人物に対して、その当時の「新聞記者」になったつもりでQ&A方式でインタビューし、受け答えの様子を新聞にまとめる。

◇必要に応じて、絵や図などを入れてもよいことにした。

◇その当時に流行っていた物の宣伝や広告を載せた（自分で想像して考えた）児童がいたので、よい例としてそれを紹介した。

◇完成した新聞は教室に掲示し、授業参観の際に保護者の方にも見ていただいた。



児童が作ったインタビュー新聞

### 授業実践その③

#### ○題材名

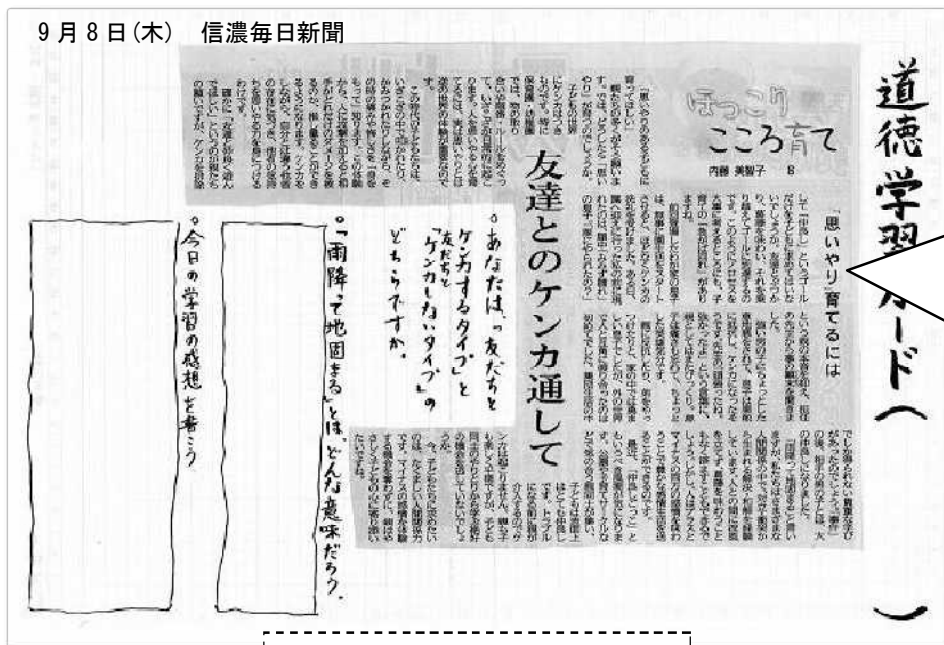
『コラム「ほっこりこころ育て」を読んで、友だちとの関係を見つめ直そう』（道徳）

#### ○ねらい

友だちへの思いやりについて書かれたコラムを読んだ子どもたちが、「雨降って地固まる」という言葉の意味を考えることを通して、友だちとの関係のなかで、ケンカをすることも大切なことであるということに気付くことができる。

#### ○内容

- ◇新聞記事を貼った学習カードを配布し、5～6分で読む。
- ◇読みながら、気になった部分や心に残った部分にマーカーで線を引く。
- ◇文章中の『雨降って地固まる』という言葉に注目させ、その意味を考える。
- ◇『雨降って地固まる』と同じような体験があれば、どんな状況でどんな心境だったかを発表させる。
- ◇担任の体験談から、友だちとケンカすることのよさを知る。
- ◇感想をまとめる。



授業で使用した学習カード

授業で使えるような記事は、すぐに切り抜いていくつかストックしておくとう便利。  
（切り抜き記事専用のクリアファイルを作った。）

## 授業実践その④

### ○題材名

『新聞という扉から社会をのぞこう、社会を知ろう』（総合的な学習の時間）

### ○ねらい

新聞に対してあまり親しみがなく、活字を読むことに抵抗感をもっている子どもたちが、新聞記事を読んで考えたり気に入った記事をスクラップしたりすることを通して、日本の政治や経済、事件、スポーツなど様々な社会的事象に興味関心をもち、それらに対して自分なりの視点をもって意見をまとめることができるようになる。

### ○内 容

#### ①〔新聞記事を読み深めよう〕

- ◇新聞記事の切り抜きを配り、読む。(5～7分程度。分量によって)
  - ◇読みながら、気になった部分や心に残った部分にマーカーで線を引く。
  - ◇どんな部分に線を引いたか、発表する。
  - ◇記事に関する質問が書かれたプリントを配り、10分程度でやってみる。  
→信毎学習シートを参考に自作した。質問は4問程度で、最後に感想記入欄がある。
  - ◇必要に応じて、追加の記事を配布することもある。
- ※ウォーミングアップとして授業の最初の15分くらいでやることが多い。**

#### ②〔気に入った新聞記事をスクラップしよう〕

- ◇NIE事務局からいただいたスクラップノートを使用。(右写真→)
  - ◇自分の気に入った新聞記事を切り抜き、スクラップノートに貼り、記事を選んだ理由や感想を記入する。
  - ◇選んだ記事の気になった部分や心に残った部分にマーカーで線を引く。
  - ◇友だち同士でお互いのスクラップを見合い、コメントを書き合う。  
何人からコメントをもらってもよいこととした。◇テーマを決めてスクラップしたこともある。
- (ex:自然に関すること、人に関すること、震災に関すること、等)



感想などを書く欄

#### ③〔新聞を読みやすく、見やすくするための

効果的な『レイアウト』を考えよう〕

- ◇「子ども新聞コンクール」に応募することを伝え、読む人にとって読みやすい新聞、見やすい新聞とはどんなものか、意見を出し合う。
  - ◇実際の新聞の一面を見て、トップ記事はどこに書いてあるか、見出しの大きさはどれくらいか、写真や図はどの位置に割り付けてあるかなどを考える。
  - ◇応募チラシの裏面を参考に、効果的なレイアウトを知る。
- ※今年度は子ども新聞コンクールに31人応募し、審査の結果、入賞1名、入選7名であった。**

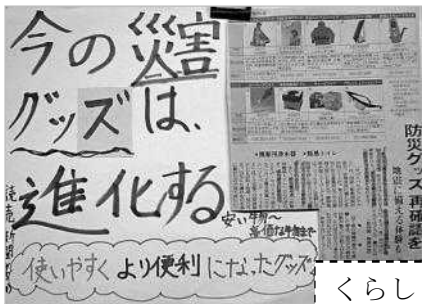
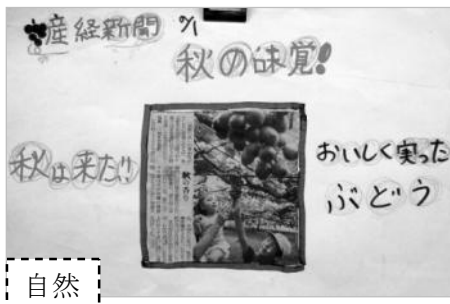
子ども新聞コンクール 入賞作品



④ [気に入った記事に自分なりの見出しをつけてみよう]

- ◇スクラップをするときと同様に、自分の気に入った新聞記事を切り抜く。
- ◇切り抜いた記事は画用紙に貼り、その記事に見合った見出しをつける。  
この時、もともと記事に書いてある見出しとできるだけかぶらないように注意する。
- ◇作品は教室後方のコルクボードや入り口付近に掲示し、多くの人に見てもらった。

※総合の時間で子どもたちが取り組む前に、担任の方で同じことを何週間か続けて行ってみた。ただ新聞記事を切って掲示しておくよりも、見出しやコメントを書いてあるものを掲示しておいた方が、子どもたちが興味をもって見てくれるようになった。しばらく続けてみると、「同じ物を自分で作ってみたい」と言う子が何人か出てきたので、取り組ませることにした。



記事を読んでみて、付け加えたいコメントや絵があれば、自由に書いてもよいことにした。それぞれ、工夫を凝らし、意欲的に取り組んでいた。

スポーツ

【教室内に設置した「スクラップコーナー」】

室後方にある連絡黒板のスペースを使って、「スクラップコーナー」を設置した。(スクラップの取り外しが容易であることから、コルクボードを使用した。) 子どもたちや担任が作ったスクラップを掲示し、1週間程度で新しいものと貼り替えている。

任が作る場合は、できるだけタイムリーな話題にしようと考えている。また、話題が偏らない工夫も必要である。



教室内のスクラップコーナー

#### IV 単元の展開（総合的な学習の時間：全 15 時間）

| 段階 | 活動の流れ、課題   | 時間 | 育てたい子どもの姿  |
|----|--|----|--|
| 一次 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">書き手の伝えたいことを読みとって見出しをつけよう（本時）</div>   | 1  | ※本時案参照   |
| 二次 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">記事の要旨が一目で分かる、効果的な見出しの付け方を考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見出しを隠した記事を読み、要旨と思う部分にマーカーで線を引く。</li> <li>・自分なりの見出しを考え、発表する。</li> <li>・より伝わりやすくするためには、どんな見出しがよいか考える。</li> </ul>  | 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①与えられた情報から、必要な情報を選定、検索することができる。</li> <li>②自分の意見に根拠をもち、自信をもって発表することができる。</li> <li>③効果的な見出しの付け方を考えることができる。</li> </ul>                   |
| 三次 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">テーマを決めて「スクラップ新聞」を作ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクラップ新聞を作ることを伝え、どんなテーマがよいか考えを出し合う。（構想）</li> <li>・テーマが決まったら、テーマごとに3人ずつ位のグループを作る。</li> <li>・グループごとに必要な新聞記事を探しだし、切り抜いてストックしておく。（取材）</li> <li>・新聞全体のレイアウトを考える。（構成）</li> <li>・切り抜いた記事を貼り、その内容にふさわしい見出しを書く。（記述・推敲）</li> </ul> | 7  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①活動の見通しをもって計画的に進めることができる。</li> <li>②新聞を通して、社会の動きや出来事に興味・関心をもつことができる。</li> <li>③与えられた情報から、必要な情報を取捨選択し、それらをもとに新聞を作成することができる。</li> </ul> |
| 四次 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">完成したスクラップ新聞を発表しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の計画をたてる。</li> <li>・発表原稿を作成する。</li> <li>・発表の練習をする。</li> <li>・グループごとに発表する。</li> <li>・発表を見ての感想を出し合う。</li> </ul>   | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分の意見に根拠をもち、自信をもって発表することができる。</li> <li>②他のグループの発表を聞いて互いの良さを認めあうことができる。</li> </ul>  |

※クラス内で発表後、多目的ホールに掲示する予定。

## V 本時案

### (1) 主題名

『新聞と親しみ、新聞を楽しむN I E ～新聞と友だちになろう～』（総合的な学習の時間）

＜出典：信濃毎日新聞『建設標～10代から～』より数点＞

### (2) 本時の位置

全15時間扱い中の第1時

### (3) 主眼

『10代から』の意見文を読んで見出しを考える場面で、大事だと思う部分に線を引いたり、班の人の意見を聞いたりすることを通して、書き手が最も伝えたいことを読みとって見出しを考えることができる。

### (4) 指導上の留意点

- ・児童に配布する記事は、見出しが見えないように加工しておく。
- ・児童から出された意見についてはできるだけ教師が返答をせず、児童にどう考えているかを問い返すようにする。
- ・発表中の発言、表現などについては、その良さを認める。
- ・自分の考えと実際の記事との比較が「答え合わせ」にならないよう、個の考えを認める。

### (5) 本時案

| 段階                       | 学習活動                        | 予想される児童の反応   | 時間 | ○指導 評価  | 備考  |
|--------------------------|-----------------------------|--|----|---|---|
| 導入                       | 1 『10代から』に掲載された友だちの意見文を読む。  | ・あ、○○さんの意見文だ。<br>・前に新聞で読んだことがあるぞ。  | 5  | ○掲載された児童の意見文を配布し、読ませる。<br>○空欄になっている見出しを考えさせた後、実際に掲載された見出しを提示する。<br>○本時の活動を提示する。 | 意見文を載せた資料（児童用）<br><br>資料を拡大コピーしたプリント（掲示用） |
|                          | 2 空欄になっている見出しを予想する。         | ・あれ、見出しが隠れているなあ。<br>・どんな見出しなんだろう。<br>・予想と同じような見出しだったな。                       | 3  |   |   |
| 書き手の伝えたいことを読みとって見出しをつけよう |                             |  |    |   |   |
| 展開                       | 4 見出しを付けるときのヒントは何かを考え、発表する。 | ・書いた人が一番言いたいことだと思うな。<br>・大事な部分は「要旨」って言うんだっけ。<br>・要旨の中に、見出しのヒントがありそうだな。       | 5  | ○意見文のどこに線を引いたかを発表させる。<br>○線を引いた部分の中にヒントがあるということに気付かせる。                          |   |
|                          | 5 配布された意見文の見出しを考える。         | ・この意見文は読んだことないな。<br>・また見出しが隠れてる。どんな内容かなあ。<br>・きっとこの部分が大事なことだと思うから、この見出しにしよう。 | 7  |   |   |



|        |   |   |    |   |                |
|--------|---|---|----|---|----------------|
| 展<br>開 | 6  自分の考えた見出しを班の中で発表し、班の中でひとつ、発表する見出しを決める。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕は、～という部分が、書いた人の一番に言いたいことだと思うので、…という見出しにしました。</li> <li>・一番最後に～と書いてあるので、私は…という見出しにしました。</li> <li>・僕は〇〇くんの…という言葉が入っている見出しがいいと思います。</li> </ul> | 7  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○班になるよう指示し、その中で発表させる。</li> <li>○理由を明確に言うことを発表前に確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">書き手の伝えたいことを読みとって、見出しを考えることができたか。</div> | 実際の見出しが書かれた画用紙 |
|        | 7  掲載された見出しを見て、自分の考えた見出しと比較する。            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あ、ほとんど一緒だ。</li> <li>・少しちがっていたけど、言いたいことは同じだ。</li> <li>・一番言いたいことは、このことだったんだ。</li> </ul>   | 10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○班の中で決めたら画用紙に書くよう指示する。</li> </ul>  |                |
| 終<br>末 | 8  本時をふり返り、感想を記入する。                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の要旨をヒントにすれば、分かりやすい見出しが付けられることが分かった。</li> <li>・次は事件やスポーツの記事の見出しについて考えてみたい。</li> </ul>  | 5  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習カードに感想や学んだことを記入させる。</li> <li>○数名指名し、本時の感想を発表させ、見出しをつけることに関わった感想を発表させる。</li> </ul>   | 学習カード          |

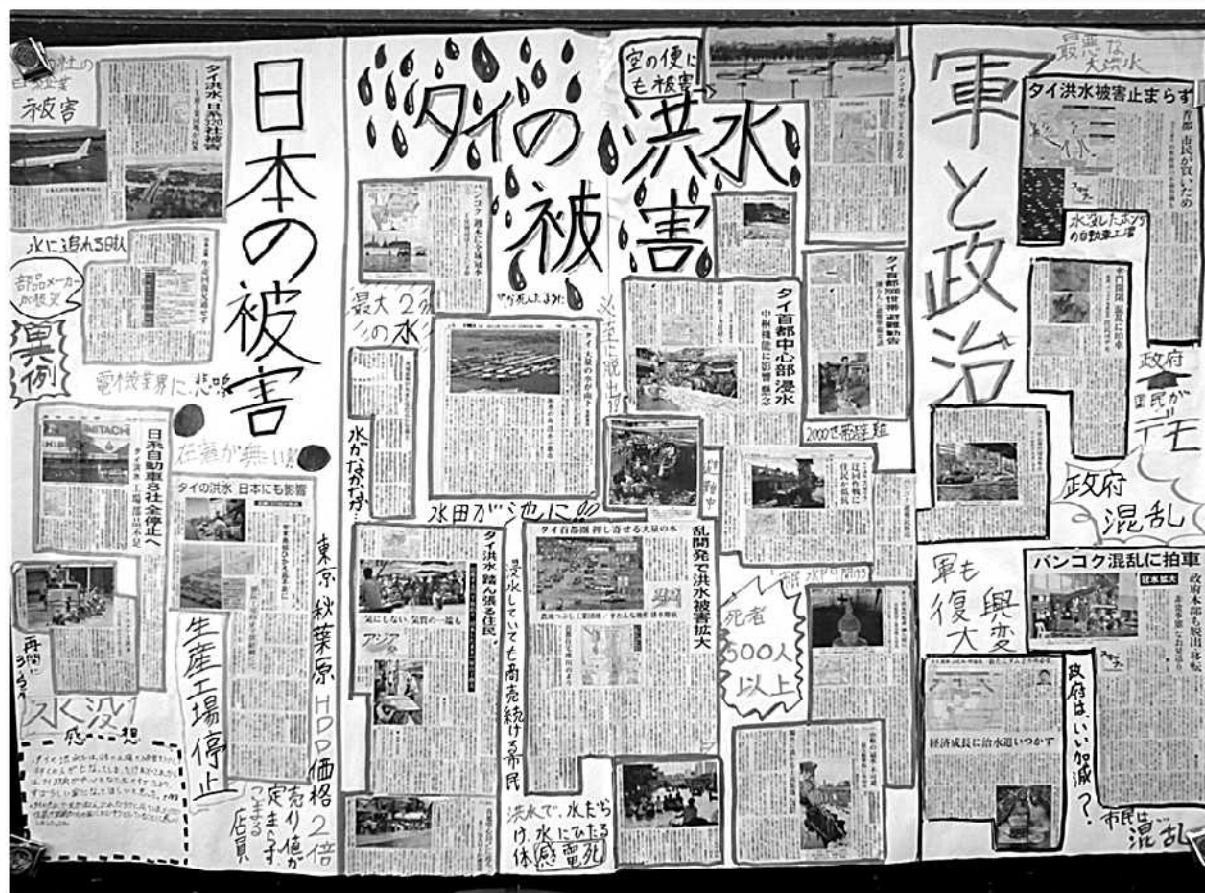
### 【評価の観点】

- ①『10代から』に掲載された友だちの意見文を資料として使用したことは、子どもたちが新聞に対して抵抗感なく興味関心をもつ手立てとして有効であったか。
- ②大事だと思う部分に線を引きながら意見文を読んだ活動は、自分の考えた見出しを根拠に基づいて発表させる手立てとして有効であったか。

### 【授業研究会におけるN I E事務局の方々からのご指導】

- ・授業内では「タイトル」としていたが、記者からするとそうではない。本時の授業で子どもたちが考えていたのは「見出し」である。その区別を事前にしっかりとしておいてほしかった。
- ・「タイトル」には文章の要旨が含まれていないが、「見出し」には“5W1H”を入れる必要がある。見出しを読んで内容のポイントをつかんでもらうためには、そこに結論を入れなければならない。
- ・「10代から」に自分達の手書いた意見文が掲載されたことで、社会とのつながりを感じることができたと思う。新聞がその役割を担っていたと考える。社会とつながり社会のことをよく知るために、新聞に触れる機会を今後もつくってほしい。

※スクラップ新聞を制作している様子と作品例



## VI まとめ

### (1) 研究の成果

- 以前よりも新聞に目を通す子どもが増え、新聞から情報を得ることに抵抗がなくなってきた。  
常に教室内に新聞があるという環境をつくり、必要なときに自分で調べられるようにストックしておいたことがよかったのではないか。
- 政治や社会の動きに興味をもつ子が増え、家でも新聞に目を通す児童が以前より増えた。また、朝の会や授業中などに時事的な話題を出しても、反応してくるようになった。
- 見出しを考えたことで、文章中のキーワードを見つけ要旨を読み取りながら記事を読めるようになってきた。国語の授業においても段落ごとに見出しを付ける学習を行ったところ、要旨を的確に読み取れるようになった児童が以前より増えた。
- スクラップ新聞を作る過程でテーマに沿って切り抜いた新聞記事を内容ごと細かく分類したことで、必要とする記事をグループ内で協力しながら自分達で取捨選択できるようになった。さらに、見出しを付ける学習を繰り返し行ってきたことで、記事の内容が一目で分かるような見出しを付けられるようになった。

**【本研究でついと考えられる子どもたちの力】**  
新聞を通して社会の動きに目を向けることができる力  
新聞から得た情報を必要に応じて活用することができる力

### (2) 来年度に向けた課題

- ◇新聞を使って授業をする際に、ただやみくもに新聞を使うのではなく、どんな力を子どもたちにつけさせたいか、どんな活動にしていきたいかなど、学習の見通しをより明確にしていく必要がある。
- ◇N I Eを教科の枠を超えた横断的・総合的な学習としてとらえ、どんな教科で新聞を使った学習ができるかを学習指導要領や指導内容などを考慮しながら検討していく必要がある。
- ◇本年度は活動が中心であったので、次年度は子どもたちの表現力（文章、発表など）を伸ばすような研究をしていきたい。

**【来年度に向けた課題】**  
活動の見通しをもち、子どもたちにつけさせたい力を明確にしていくこと  
横断的・総合的な学習として他教科との連携をすすめ、学習内容を検討していくこと  
子どもたちの表現力を伸ばす指導をしていくこと